「はい、そうそう」

「４球目」

「ちゃんとボールを見なさい」

「最後、５球目」

「全然駄目よ、なにしてるの」

三田：

「ありがとうございました」

結月：

「集合」

下山、広野、三田：（３人同時に）

「はい」

駆け足で、結月の前に集合する下山、広野、三田の３人。

結月：

「三田君は２球、下山君は１球、そして広野君はゼロ」

「散々たる結果ね」

広野：

「先輩、凄すぎて」

結月：

「言ってなかったかしら？」

「私、中学の時、サービスエースで有名だったのよ」

下山：

「先輩って、テニスやってたんですか」

三田：

「どうりで」

結月：

「どうであれ、こんな結果は恥ずかしいわよ」

「君たちは、それでも男なの？」

「女子に負けるなんて」

「男なら、キンタマ出して、証明してみせなさいよ」

「なにしてるの？」

「早く脱いで、見せなさい」

下山：

「先輩の前で、ちんこ出すんですか？」

「オレ、恥ずかしいです」

広野：

「オレも、先輩にちんこ見られるの恥ずかしいです」

三田：

「オレも、恥ずかしいです」

結月：

「なに甘い事言ってるのよ」

「私は、君たちのおちんちんを見てもなんとも思わないわよ」

「気合が足りないんじゃないの？」

そう言い、いきなり３人に往復ビンタをする結月。

下山：

「先輩、痛った」

三田：

「痛いですよ」

広野：

「怖っわ」

頬に手をやる３人。

結月：

「これで、少しは気合が注入されたかしら？」